新聞記事等掲載情報

各種媒体に紹介された当商談会の記事を紹介します。 ※記事・写真の無断転載を禁じます。

●十勝毎日新聞 2023.9.6

(東京) 北洋線行と帯広 (東京) 北洋線行と帯広 (東京) 北洋線行と帯広 (東京) 北洋線行道を高間終会 1 ル・n Toky020 23 が8月3日、9月1 日の両日、都内の池袋サン シャインシティで開かれ

商談会。2 商談会。開催は4年ぶり。 適談会。開催は4年ぶり。

の1社が出展、自慢の乳製 品や肉製品などを首都圏の パイヤーに売り込んだ。

イスカンをPR。鈴木勝治 代表は「氷温熟成すること 反応は良かった」と販路拡 大に手たえを感じていた。 していきたい」と話した。 帯信金の木村勇哉推進役

十勝のチーズや肉に注目 首都圏最大の道産食品商談会



理的表示(G上)保護制度 理的表示(G上)保護制度 上交子シントを 外点 レたラクレットを みりしたフクレットを みりしたフクレットを 対り フォイルに博力に「オリーア の深」を試査で提供し、好 解だった。体験能理事長は 「ラクレットの問い合わせも多いたいとの問い合わせも多いたいとの問い合わせも多いたいとの問い合わせも多いたいとの問い合わせも多いたいとの問い合わせも多いたいとの問いと対出版のミートピア (帯広)は、全国がと対出版のミートピア、(帯広)は、全国がと対出版のミートピートで表示して、 理的表示 (GH) 保 同組合 (音更) は、

●北海道新聞 2023.9.1



●日本農業新聞 2023.8.23

本学校では、 ・ できない。 ・ この他、首都圏への 販路拡大に向けた個別 販路拡大に向けた個別 東京・池袋で 31、9月1の両日

●北海道協同組合通信 2023.9.1

北洋銀行と帯広信金が東京で食品商談会

道内の生産者や企業、団体ら 102 者が出展

【東京】北洋銀行と帯広信用金庫は8月31日、東京・池袋のサンシャ インシティで北海道産食品の商談会「インフォメーションパザールin T okyo2023」を開いた。北海道の生産者や食品企業、JAなど102社・ 団体が出展し、北海道食品の魅力をPRした。商談会は1日まで行う。

インフォメーションパザールは、道産食品の阪路開拓・拡大を目的に 1984 年に札幌市で開始した。2005 年からは会場を東京に移し、10 年 から帯広信用金庫と共同で開催しており、首都圏最大規模の道産食品商 談会として各方面から注目を受けている。

20年以降はコロナ禍で休止していたため、今回は4年ぶりの開催とな る。今回は新たな企画として「北海道の魅力発信コーナー」を新設し、 北海道農政部の職員などが道産食品をPRした。「モォ〜っと牛乳を飲 もう!」のブースでは、酪農の生産現場や牛乳の製造工程などを解説し たパネルを展示したほか、北海道の酪農乳業の現状を紹介した。また、 道内の観光関連団体 17 団体や首都圏の旅行代理店など 19 社が参加し て個別商談を行うとともに、道内各地の観光素材の発掘と旅行の商品化 を推進した。



いさつした北洋銀行の安田光春 頭取は、食品産業を巡る情勢に 触れる中で「労働力不足や資源・ エネルギー価格の高騰に伴うコ スト高、社会経済活動のデジタ ル化、SDGs(持続可能な開発 個用金 目標)の推進など、人々の食に対 する嗜好や意識が変わってきて

開会式で主催者を代表してあ

いる。こうした中、食品産業は大きな転換期を迎えており、これまで以 上に安全安心、そしておいしいものが求められている」と述べた。

その上で「食品関連企業を取り巻く経営環境は大きな変化が続いてい るが、北洋銀行は北海道に根ざした地域金融機関として新たな成長への チャレンジをサポートしていきたい」と述べ、インフォメーションバザ ールをきっかけに、北海道の食と観光の魅力が首都圏に広く発信される ことに期待を込めた。

出展者のうち㈱高橋牧場(ニセコ町)は、牧場で製造している飲むヨ -グルトやチーズの首都圏での販路拡大をねらい、インフォメーション バザールに初出展した。高井啓店長代理は「コロナ禍の行動制限が緩和 されたため、チャレンジしてみた。現在も道外への取引はあるが、さら なる認知向上につながればうれしい」と語った。

JA道信連は、道内7JAの参加を取りまとめ、「なまらうまい!JAコーナー」として出展した。参加したJAのうちJA北宗谷は、「稚 内牛乳のむヨーグルト」の試飲を行うとともに、アイスクリームや牛乳 の展示を行い、来場者の注目を集めた。 (嶋 雄介)

●月刊セルフサービス10月号



●室蘭民報 2023.9.6

西胆振から4団体・企業

北洋銀、東京で道産食品商談会

3千人来場、魅力を発信



●日本食糧新聞 2023.9.8

北洋銀行6 サンシャインで食の大商談会

が念する」と締めくくった。 主慰俊彦北海道衙町 東は「インフォメーシ 東は「インフォメーシ ラグであり、パイヤー 読念であり、パイヤー の方が2日間で約40

市口口間間別地でしている。 市口口間間別地でしている。 1000周間した河野・ 1000周間した河野・ 1000周間した河野・ 1000周間と大河野・ 1000周間に大河野・ 1000周囲・ 1000周間に大河野・ 1000周囲・ 10

●食料新聞 2023.8.1

社の北海道企業・団体が出 健となる今回は、約100 開い西談会。 4年ぶりの開 都圏最大規模の道産食品の

商談会として大きな注目を がたな食の逸品に出会える があるとして大きな注目を

北海道各地

心の食が集

3800名のバイヤーが 3800名のバイヤーが ール」は、昭和59年の

●ニッキン(online) 2023.8.31

北洋銀・帯広信金、「オール北海道」で地元産品の販路拡 大支援 中国禁輸受け「国内消費を増やす」

北洋銀行と帯広信用金庫は8月31日、北海道の食品業者を出展対象とする商談会を東京都内で開いた。大済 費地のバイヤーと接点を作り、新たな商売につなげてもらうのが狙い。コロナ禍で中止していたため、4年ぶ りの開催となった。9月1日まで開催する。

今回は道内の計15機関の信用金庫や信用組合も協力して「オール北海道」体制で図み、出居社・団体数は 102先にのぼった。中国が日本の水産物輸入を停止することを表明しており、主催者側の関係者は「厳しい状 況が当面続くだろう。苦しいときこそ、国内消費を増やしてサポートしたい」と話した。

北洋銀の安田光春頭取は、リアル開催について「食品なので実際に味わってもらうことが効果的だ。パイヤ が会場で新たな商品に出会う機会にもなる」と意義を語った。

同行は運営スタッフ以外に、入行3年目の若手行員50人を視察のために会場に送り込んだ。取引先の営業姿



帯広信金は、取引先15社の出度をサポートした。八木智専務理事は「首都圏の販路拡大は容易ではない が、(今回の商談会は)絶好の機会。北海道の食の魅力を伝えたい」と話した。足元では、酪農家の経営が 飼料や燃料代の高騰で圧迫されており、販路拡大など本業支援にも注力する方針だ。

乳製品を紹介していた北宗谷農業協同組合のスタッフは「道外の販路先が限られており、こうした機会を生 かして売り上げを伸ばしたい」と意気込みを示した。

会場内では同日、観光裔談会を同時開催。道内各地の宿泊事業者や観光協会、観光地域づくり法人 (DMO) など 17 団体が参加した。旅行会社やメディアなど 18 社に対し、165 件の商談が行われた。

●食料醸界新聞 2023.9.11

全国スーパーマーケット協会が企画運営

オメーションバザール」4年ぶり開催



チーズケーキを展示

学やイラストの形になる足 市や高芒路品を製造・販売 している。本に穏守上数分 で、資本の文字に他元子も の文字に他元子も の文字に他元子も の文字に他元子も の文字に他元子も の文字に他元子も の文字にも「デザインの路 とちまざまなデザインの路





0

〇社を超える道内企業が出展



北海道農政部食品政策課は北海道の新額作物をPR

15